

外務大臣 玄葉光一郎 殿

公益財団法人国際開発救援財団
理事長 飯島延浩

平成23年度国際開発協力関係
民間公益団体補助事業完了報告書

平成23年8月5日付第49号をもって補助金の交付決定を受けた標記の事業が完了したので、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律第14条前段の規定により、関係書類を添え、下記のとおり報告します。

記

1. 補助事業の名称：プロジェクト調査事業
2. 補助金の交付決定額及びその精算額（別紙のとおり）
3. 補助事業の実施期間：平成23年8月10日～12月31日
4. 補助事業の成果

要約： 当プロジェクト調査事業では、ベトナム国クアンナム省ナムザン郡において観光開発の可能性を調査すると同時に、地域住民が裨益でき、且つ地域住民（郡、社および村）が主体となって実施する地域主導型のコミュニティー・ツーリズム計画案が策定され、今後の事業策定につなげることを目的として、約2か月間のフィールド調査を実施した。

フィールド調査では、観光分野の専門家を含む調査員3名が行政および地域住民と協力して、事業対象地を訪問し、コミュニティー調査、観察調査および関係者へのインタビュー・聞き取りを行い、ほぼ予定通りに調査を行うことができた。そして、潜在・顕在的な観光資源を明確にできただけでなく、事業策定に向けた有益かつ十分な情報およびデータを得ることができた。

詳細説明：別紙の通り

別紙

交付決定の内容		支払実績額	確定額
補助対象 経費の区分	補助金の額		
① 研修会、ワークショップ開催費	¥0	¥0	
② 調査員等旅費	¥149,600	¥149,600	
③ 調査員人件費	¥1,097,600	¥950,000	
④ 通信費	¥10,320	¥8,658	
⑤ 事業資料作成・購入費	¥0	¥0	
⑥ 事業管理費	¥24,940	¥13,424	
小計	¥1,282,460	¥1,121,682	

備考

確定額は補助金の額と支払実績額のいずれかの低い額とする。

補助対象外 経費の区分	所要額 (自己資金)	支払実績額	摘要
① 研修会、ワークショップ開催費	¥328,840	¥301,900	
② 調査員等旅費	¥428,020	¥234,823	
③ 調査員人件費	¥462,400	¥557,500	
④ 通信費	¥0	¥0	
⑤ 事業資料作成・購入費	¥21,500	¥1,529	
⑥ 事業管理費	¥43,450	¥34,807	
小 計	¥1,284,210	¥1,130,559	
補助金使用実額	1,121,682円	自己資金使用額	1,130,559円
総 事 業 額		2,252,241円	

調査事業報告詳細説明

■調査事業地

ベトナム国クアンナム省ナムザン郡

■調査事業期間

平成23年8月10日～平成23年12月10日

■調査目的

当プロジェクト調査事業では、ベトナム国クアンナム省ナムザン郡において観光開発の可能性を調査すると同時に、地域住民が裨益でき、且つ地域住民(郡、社および村)が主体となって実施する地域主導型コミュニティー・ツーリズム計画案が策定され、今後の事業策定につなげることを目的とする。

■調査員

高寺奎一郎調査員、大槻修子調査員およびゴー・コン・タン調査員

1. 詳細説明概要

近年、世界的なグローバリゼーションは益々勢いを増し、全世界の経済、文化、人々の生活等に多大な影響を与えている。国際ツーリズムは、「国際観光ツーリズムこそが、20世紀後半を最も特徴付け、かつ21世紀の人類社会に大きな影響を及ぼしうる人類の移動の形態¹」とも表現される等、地球規模での現象と言われている。実際に、全世界の国際観光客数は2007年までは増加の一途をたどり、2008年には経済悪化の要因から減少しているものの、2009年の国際観光客数は約8億8千万人に上る。この数値は1989年の国際観光客数約4億人の100%以上の増加となっており、特にアジア・太平洋地域の観光市場が目覚ましい成長を遂げ、当市場をけん引している。それらの状況を受けて1999年国連においても、アジェンダの中でツーリズムによる貧困削減の可能性を取り上げ「すべての主要な関係団体、地元の社会が協力し、適正な戦略を開発することにより、貧困を削減するために、ツーリズムの持つポテンシャルを最大限に活用することが望まれる」と述べられる等、昨今国連をはじめ国際機関、他援助団体においても国際ツーリズム推進を指針に掲げるようになっており、地域の貧困削減を担う役割が重視されるようになっている。

このような状況の中、ベトナム国においても観光開発振興が国の開発計画にも明記され、北部、中部および南部の各地域では盛んに国際ツーリズムの誘致を行い、多くの観光客を受け入れている。今回の調査事業対象地であるベトナム中部においても同様に、ダナン市を中心に国際ツーリズムの誘致を積極的に行っている。当該地域は「フエの建造物群」「ホイアンの古い町並み」「ミーソン聖域」の3つの世界遺産を持ち、さらにその豊富な自然や少数民族による独自の文化が集約されている地域として、観光開発は開発計画の一つの柱として重要な分野となって

¹ 高寺奎一郎（2004）：「貧困克服のためのツーリズム」

いる。特に2011年9月には、JATA主催による国際観光フォーラム(旅博)に参加し、積極的にベトナム中部地域のPRを実施するなど、観光開発を積極的に推進しはじめている。

一方で、観光開発が進むにあたり、経済的利益を地域にもたらす可能性が高まると同時に、当該地域の人々や社会に負の影響を与える可能性も十分に検討されなければならない。特にダナン市においては、多くの大型ホテル建設への投資がなされる等、急ピッチで観光開発が進んでおり、数年後には多数の観光客が押し寄せることが十分に考えられ、地域の人々の日常生活や自然環境等が乱されたり、長期的には地域の社会や文化に大きな変化をもたらすことも考えられる。そのため、事前に有効な手段を講じることが必要となる。

FIDRは、そのベトナム中部ダナン市から約80km、車で約1時間半の距離に位置するクアンナム省ナムザン郡において2001年から2007年まで地域総合開発事業を展開してきた。その中で派生した少数民族カトウーの伝統織物を地域の収入向上に活用する事業を2008年より実施し、カトウー族の誇りや自信が高まるといった人々の変化のみならず、村や最小行政単位である社、郡といった行政の縦の繋がりも強化されていることが確認されている。元来、工業化を強力に推し進めてきた行政や地域の人々が、少数民族カトウー族の持つ伝統や独自の文化・社会・豊富な自然といった価値に気づき始めているが、それらの地域資源を活用したコミュニティー・ツーリズムを含む開発計画へと方向修正することは大きな挑戦である。そして、村や社²内の地域住民をはじめ、郡行政においてもその調査手法並びに地域資源を活用したコミュニティー・ツーリズム計画策定法を把握している者がおらず、計画案を策定するには至っていない状況である。そのため、今回の調査事業を通して、村や社の地域住民参画³による観光開発を郡行政が郡の開発計画の一つとして積極的に推し進め、コミュニティーの価値、文化、伝統、経済利益といったコミュニティーの利益を守り、促進するための地域主導型の観光開発を行い、運営する仕組みを創出する開発事業の案件形成を目指す。

上記の状況から、クアンナム省ナムザン郡の観光開発の可能性を調査すると同時に地域住民が裨益でき、且つ地域の人々が主体となって実施するコミュニティー・ツーリズム計画案を提示し、今後の事業策定につなげることを目的とする調査企画事業を策定した。

2. 訪問先および調査対象組織等

■クアンナム省

- クアンナム省外務局
- クアンナム省スポーツ・文化・観光局
- 在ナムザン郡クアンナム省職業訓練所

■ナムザン郡人民委員会

- ナムザン郡文化情報局
- ナムザン郡少数民族局
- ナムザン郡インフラ整備局

² ベトナムの最小行政単位。当該地域の社では、1社あたり約8~9村から構成される。

³ ここでいう参画とは、意思決定とオーナーシップへの地域住民の参加を意味する。

- ナムザン郡教育局
- ナムザン郡保健局
- ナムザン郡警察
- タビン社人民委員会
- タビン社治安委員
- タビン社ハムレット代表
- タビン社小学校

■関連組織および企業

- ILOタムキー事務所
- Apex旅行社
- Vitours旅行社

3. 成果

4-1. マイチャウへのスタディーツアーの実施

ベトナムにおけるホームステイ手法による少数民族文化紹介・体験型観光開発の先行事例であるマイチャウへの視察研修会を下記により実施した。

1) 9月6～8日(6日はハノイ市内にて、国立民族博物館にて研修)

2) 場所: ホアビン省マイチャウ

3) 視察目的: 下記についての参加者の理解促進

- ① コミュニティー・ツーリズムの先行事例とタビン社にとっての参考事例
- ② ホームステイに必要な施設と運営
- ③ 住民参加の意味と必要性
- ④ 土産品の仕様と販売方法
- ⑤ 文化紹介方法

4) 参加者: 計16名

- ナムザン郡人民委員会副議長
- ナムザン郡共産党副代表
- ナムザン郡文化情報局長
- ナムザン郡文化情報局副局長
- タビン社代表
- タビン社副代表
- バイヤ村観光担当候補(2名)
- バイヤ村エコツアーガイド(2名)
- パスワ村伝統舞踏グループリーダー
- ザラ村村長
- ザラ村織物グループメンバー(1名)
- FIDR調査員3名(内1名: 高寺調査員)

4-2. CBT (Community Based Tourism)

ナムザン郡の観光開発を、住民主導によるCBT(Community Based Tourism)型により行うこととし、その開発モデルとして、対象地区をタビン社とすることの妥当性について、ナムザン郡と協議し合意した。

4-3.宝探し手法の試行

住民主導により地元観光資源の発掘、開発を行う「宝探し」手法は、日本の多くの自治体において実施され成果を収めている。

今回の調査では、この手法をタビン社において適用することの可能性と妥当性について把握するため、下記によりワークショップを実施した。

9月 8日 マイチャウ視察メンバーに対し「宝探し」手法についてレクチャー

9月13日 「宝探し」手法の適用の可能性と妥当性を測るため、実験的に各村にて「宝探し」ワークショップを行うことについてタビン社代表、タビン社各村代表並びに郡情報文化局長と協議

9月14日 Pa Rong, Ca Dang, Pa Ting, Pa Va村にてワークショップを実施

参加者数 計140名

Pa Rong村:60名

Ca Dang村:20名

Pa Ting村:40名

Pa Va 村:20名

9月15日 Pa Ia, Pa Xua, Za Ra村にてワークショップを実施

参加者数 計75名

Pa Ia 村:15名

Pa Xua村:40名

Za Ra 村:20名

9月19日 ナムザン郡主催ワークショップにて、ナムザン郡人民委員会副議長、郡警察署長、郡保健局長、郡教育局長に対し、「宝探し」手法についてレクチャー、並びに試行「宝探し」ワークショップの結果につき報告

各村でのワークショップに予想を超える多数の参加者が得られたこと、「宝探し」手法についての住民からの理解と積極的な参加が見られたことから、同手法を適用することについて郡、社との間でスムーズな合意がなされ、試行ワークショップでノミネートされた数多くの「宝」のデータベースを作成することとなった。

4-4. 関係機関との協力

住民主導型(Community-based Tourism)観光開発手法による開発を推進することについて、関係機関からの協力の可能性を下記により調査し、各関係者より積極的な協力の申し出を得ることができた。

9月27日 在ダナン日系旅行社 Apex社、在ダナン旅行社 VI Tours

29日 タビン社小学校、社保健所、社治安委員、

30日 省職業訓練所、郡警察

4-5. ナムザン郡における観光開発モデルとしての、住民主導によるタビン社観光開発アクションプラン案の作成(詳細は添付資料を参照のこと)

前述したベトナムにおける先行事例マイチャウへのスタディーツアー、郡及び社の人民委員会

との協議、関係機関との協議、現地視察、既存計画のレビューを踏まえ、FIDRは下記によりアクション

プラン案を作成し、事業計画立案ワークショップにおいて郡、社及び村代表者に提案した。

10月6日 ナムザン郡人民委員会、副議長、文化情報局長、インフラ整備局長、タビン社代表とアクションプラン案の基本的方向について協議

10月10日 ナムザン郡副議長、インフラ整備局長とアクションプラン案について協議

10月12日 第一回事業計画立案ワークショップにて、アクションプラン第一次計画案を討議

10月20日 事業計画立案ワークショップにて、アクションプラン案を提案

<第一回事業計画立案ワークショップ>

1) 日時:2011年10月12日(水)午前8時～午後4時

2) 参加者:ナムザン郡13名、タビン社4名、社7村9名、FIDR11名

3) 目的:FIDRによる調査結果の報告と討議
プロジェクト計画第一次案の検討

<第二回事業計画立案ワークショップ>

1) 日時:2011年10月20日(木)

2) 参加者:ナムザン郡、タビン社、社7村、FIDR

3) 目的:観光開発プロジェクトのフレームとデザインの検討

● 添付資料

- a. 調査対象地地図
- b. 調査日程
- c. アクションプラン案
- d. 「宝探し」手法プレゼン資料
- e. 活動写真

添付資料 e) 調査事業—活動写真



少数民族による先駆的観光地であるマイチャウにて、ナムザン郡関係者とともに関光資源の発掘・活用に関して学んだ。



高寺調査員によって、住民主導による観光開発および「宝探し」手法に関する研修会が開催され、参加者らは考え方を共有することができた。



ナムザン郡タピン社での「宝探し」ワークショップの様子。村人は自分たちの村の宝物を次々に明確にしていった。



「宝探し」ワークショップの実施。村人によって、多くの観光資源が再発見された。



村人からの観光資源情報を確認し、記録をとりリスト化する作業をしている。



調査では、地域の老若男女の様々な人々にインタビューを行った。写真は村の若者への聞き取り調査中。



村人から提出された、地域の宝を実地調査する調査員。写真は自然観光資源の一つ。



カトゥー族の伝統舞踊「ヤヤダンス」の様子。これは、文化観光資源として登録された。



ナムザン郡タビン社小学校の子どもたちにも聞き取り調査を行った。特に遊びに関連する観光資源の話題で盛り上がった。



第1回目ワークショップの様子。郡、社、村の代表など関係者らによって、地域住民による観光開発に関して協議を行った。



すでに数少なくなっているカトゥー族の伝統楽器の一つ。



今では使うこともなくなった、カトゥー族の狩猟用の弓。



カトゥー族の大切な生活道具の一つ、魚とりの網。職人と言われる人々も存在する。



カトゥー族は様々な生活道具を自然素材から作る。これらの知恵も大切な観光資源となる。



カトゥー族には欠かせない生活道具のかご。男性によって製作される。



昔と現在の生活の違い等に関して、聞き取り調査をした。



警察および治安当局等と観光客の動向や地域の安全性に関して情報共有した。



村人への聞き取り調査の様子。生活や文化、伝統等多くの情報を得ることができた。